

## 幸せあふれる新がた

瀧東西小学校 4年 坂井 春香

「未来は、どうなっているのだろう。」

わたしは、外に出て、周りの景色を見て、考えた。

わたしが考えたこと、それは三つある。

一つ目は、かた東は、自然が多い。たとえば、木や花に囲まれた庭のある家がたくさんある。また、田や畑が多く、そこには、虫もたくさんいる。その自然という、すばらしいものに囲まれているかた東のような所を、未来の新がたに、残して行ってほしい。

二つ目は、お年よりや体の不自由な人が、集まったり、とまったりするしせつをつくってほしい。そして、そのしせつに行くことのできるバスを多くしてほしい。

たとえば、足の不自由な人が、一人ぐらしだとする。その人は、きっと一人でさびしい思いをしているだろう。また、食事也十分にできないかもしれない。げんじつにも、かた東には、お年よりが多い。日本全国、お年よりや体の不自由な人の数は、ふえてきている。しかし、そういった人たちが、リハビリをしたり、楽しくすごしたりするしせつが少ない。わたしは、どんな人も、楽しく、幸せな暮らしをしている未来の新がたであってほしい。

三つ目は、科学の発達である。科学が発達すれば、自然がこわれてしまう。しかし、私の考える科学とは、人工えい星をうちゅうに打ち上げたり、火星の表面や月のうらなどを調べたり、しゃべったり歩いたりするロボットを作ることではない。事が起きないように信号きや車を発明したり、お年よりや体の不自由な人が利用しやすい乗り物を発明したりすることだ。生まれてきただれもが、死ぬまで、ずっと幸せにすごしていける、そんな科学の発達をしてほしい。

わたしの考える未来の新がた。それは、すべての人、すべての生き物が、すごしやすく不自由のない生活を送っている場所。